

# 株式会社ジェイコムイースト 町田・川崎局 世田谷局 調布局

## 放送番組審議会 概要

平成 23 年度の放送番組審議会は 2012 年 3 月 14 日(水)に町田・川崎局で開催された。

### ＜放送番組審議会委員＞（五十音順）

ご出席

吉 良 雅 彦 様      齊 藤 亀 三 様      立 川 一 成 様

中 里 喜 代 美 様      前 川 英 樹 様      横 田 ま さ お 様

ご欠席

内 野 長 治 様

### 審議会会長選任

委員の互選により会長は立川委員になった。

事業者側から現況報告及び放送法改正、J:COM チャンネルの報告があった。

### 【質疑応答・意見交換】

（行政番組の時間について）

委員 行政番組に関して、調布市と町田市の広報番組の時間が違う理由はなぜか。

事業者 行政番組の制作と放送を業務委託されている。時間の違いは行政からの番組予算の違いによるものとなっている。

（災害対応について）

委員 防災情報の提供やボランティア番組の制作、放送を高く評価したい。それ以外にも東日本大震災以降でなにか対応したかどうかを伺いたい。関東メディアセンターとして今後、災害対応としてハードからソフトまでを含めてどのようなことができるのか。

事業者 大震災の 4 日後から小金井事務所のスタジオから生放送を実施した。主にエリア内の各行政からの情報を提供した。情報の即時性として、生放送はなかなか制限があるため、データ放送の強化を図っていききたい。直接行政から情報を入力できるように端末を設置させていただけるようこれから提案をしていくところである。駅、道路、橋、避難所などの地域の身近で細かい情報を伝えていきたい。

（災害対応について-2）

委員 NHKや民放にはできないような、地元行政とケーブルテレビならではの災害対応サービスに期待したい。帰宅難民のようになった際に、外出先でも「どこになにがある」というような情報を、データによっていつでも伝えられるようにできないか。

事業者 設備の堅牢化は経営課題と捉えている。拠点については自家発電設備を備えているがいざというときの燃料の確保が必要である。データを含めた番組の送出設備をどう動かすのか、運用する人間を送出設備までどう行かせるのかも課題となる。

#### (警察や消防との連携について)

委員 警察や消防の持っている情報には各署によって地域性があると聞く。防犯情報などは地域の特性を考慮し情報を流してほしい。

事業者 地域によって濃淡があるが、警察や消防とは少なからず連携をとっている。データ放送で対応できるか検討していきたい。

#### (学校への取材について)

委員 すごくいい情報を発信しても、気がつかなければわからないで過ごしてしまう。学校にもモニターを設置して子どもたちにも視聴してもらえばよい。家庭に帰って子どもがケーブルテレビを見たいといえば加入の可能性も高くなるのではないか。小学校の緑のカーテンの取り組みや成城ハロウインの模様などの地域的话题を積極的に取材してアピールしてほしい。また、データ放送は高齢者には気がつかない機能のようである。

事業者 ごもつともなご指摘である。J:COM チャンネルは見ていただければじめて意味がでてくる。子どもたちを映すことに関しては、少年野球以外のスポーツもいろいろ考えていきたい。また、スポーツ以外の地域の文化的なイベントも取材していければと思う。万一、学校が災害時の避難所になれば、すぐに無償でモニター導入をしていく。先の大震災の際も、避難所となった味の素スタジアムに調布市を通じてモニターを提供したという実績がある。情報発信しより多くの方に見ていただけるようにしていきたい。

#### (審議内容について)

委員 先日、商店街で東日本大震災の募金活動をした。発生から1年が経過し感心が薄くなっているかと懸念していたが、反響が大きかった。このように関心の高い災害対応も含めてJ:COM チャンネルの地域番組はがんばっている。

審議の内容は番組の内容だけなのか。加入獲得に関しても議論できるのか。

事業者 端的にいうと両方を審議の対象としていただいてよい。行政から出資をいただき、地域の情報発信をしても、J:COM チャンネルを見ている人が少なければ意味がないので加入者を増やしていくことが大切である。また、どれだけお金をかけるのか、番組スポンサーを集められるのかを検討しながら、コンテンツを増やしていったらいい。

#### (J:COM チャンネルのありかたについて)

- ・ J:COM チャンネルは既加入の方に意外と知られていない。どうしたら見てもらえるのかを考えると、「自分に関係したものならば見る」と思う。今よりももっとローカル化し、もっと細かくマニアックな番組を作ればよい。対象の地域以外の人が見ないような番組こそ見たい番組となると思う。
- ・ TV東京の『アド街ック天国』でも、我が町の特集を扱っている。東京MXテレビやTVKになるともう少しローカル色が濃くなる。J:COM チャンネルはもっと入り込んでいってよい。地元の人が喜ぶ情報であれば出演者は有名人である必要はない。一般の人はテレビに映っているだけで嬉しいものである。
- ・ 『駅なび』をはじめとした沿線番組は 1 時間枠なので長いと間延びしてしまう。細かい情報をたくさん流したほうがよい。地元のKEY局として方向付け、意識付けした番組制作を心がけてほしい。
- ・ 一方で、未加入の方は、ケーブルテレビ自体がよくわかっていない。加入しない方に聞くと「月額利用料が高いから」と答える。では値段を下げればよいかということそうではない。もっと J:COM をPRするようにしたらよい。例を挙げると、地元商店街の清掃活動にボランティアとして継続して参加し、「地域でお世話になっている」というスタンスが結果的に企業のイメージアップにつながる。顧客との話のきっかけになり、地域に愛される存在になる。知り合いになることで、ひとつ壁を乗り越え人と人とのつながりが形成されてくる。
- ・ 経堂のコルティのスペースで J:COM やミニFM局の主催でイベントを手作りで開催すれば、熱意が伝わるものとなる。看板だけ出している目にはいってこない。
- ・ 情報の収集の方法は、ニュースリリース、視聴者やインターネット経由の情報になると思うが、作り手がよいと思ってもよくなかったり、しょうがないと思ってもよかったりする。番組で全部の要件を満たすのは難しいので、年配向け子ども向けに分けてはどうか。
- ・ たくさんチャンネルがあっても視聴したいのは一部でお得感がない。オンデマンドだけの契約などのように見たいものだけを割高にしたほうがよいかもしれない。

#### (フェイスブック使用と番組ガイドについて)

委員 フェイスブックを使うことは検討しているか。また J:COM チャンネルの掲載されている番組ガイドのページを別刷りにしてはどうか。

事業者 フェイスブックの使用は検討している。ガイドの別刷りも検討したい。

#### (通販番組について)

委員 番組と番組の間のインフォメーション(通信販売番組)が多すぎる。5 分以上あるとどうしてもチャンネルを他に変えてしまう。子どもたちは取材されると、自分たちがテレビに映る場面を楽しみにしている。できるだけ長く子どもたちが映るように配慮してほしい。

(まとめ)

会長 東日本大震災後の危機管理として、行政、警察、消防、タウン誌と小田急の駅長とのミーティングがあった。当日多くの店舗がシャッターを閉める中、新百合ヶ丘駅のエルミロードは東西通路のため閉鎖できなかった。さまざまな対応をするなかで得られたものがあった。災害の即時対応ということで、今後は番組制作担当者とエリアの各路線の駅長とのコミュニケーションも必要であろう。災害情報をテロップで出す場合はゆっくりと流してほしい。

閉会ご挨拶 貴重なご意見を多数いただき感謝する。すぐ実現できるものとそうでないものを見極め、会社の運営に役立てていきたい。放送番組審議会の場にこだわらずいつでもご意見をいただきたい。

以上